

モンカダ兵営襲撃 60 周年の年

「キューバフェスティバル vol.2 イベント」に 600 人が参加



アレキサンダー・L.P. とブーロス・アパルトの演奏模様

7月27日、坂戸市文化会館にて「キューバフェスティバル vol.2 支倉常長キューバ訪問 400 周年記念イベント」が開催されました。

キューバフェスティバルの1回目は、4年前の2009年に「キューバ革命50年・日本キューバ国交樹立80年」を記念して開催しました。この時は、前年の4月友好訪問（稲作支援を探る最初の訪問でもありました）の後に、日本キューバ連帯委員会（クバポン）代表委員の鎌田氏より来年のキューバ革命50周年をテーマにした集会を何か企画できないかという提案があり、それに応える形で埼玉の川越・坂戸を中心にキューバフェスティバル実行委員会を立ち上げました。そして、半年を越える準備の中で2009年5月9日に盛大にキューバフェスティバルを開催しました。ハリケーン被害復興支援金約33万円を大使館に贈呈した時に、当時のホセ・フェルナンデス・デ・コシーオ大使より実行委員会を解散せずに、今後ともキューバの友

好親善のために活動することを要請され、以後坂戸で年に1、2回活動を続けてきました。

今からちょうど60年前の1953年7月26日に、キューバ（革命）にとって大きな出来事がありました。それはモンカダ兵営襲撃です。この日は（1959年）1月1日の解放記念日より国民的大集会、記念式典が行われています。今年はモンカダ兵営跡で行われました。

（「2013年版経済封鎖下を生きるカリブの社会主義XV」の表紙、今年の11月友好訪問でも行きます。）

これに連帯すべく昨年から2回目のキューバフェスティバルを企画してきました。キューバ大使館へ後援依頼に行った時に前臨時大使のバジェステル氏より支倉常長がキューバ訪問に出席して400周年にも当たるのでその記念行事としても取り組んでほしいという話がありました。それで「キューバフェスティバル vol.2」は「支倉常長キューバ訪問 400 周年記念イベント」「モンカダ兵営襲撃・革命記念日 60 周年」「日本人のキューバ移住 115 周年」という長い副題となりました。

今回のキューバフェスティバルでは午前中に報告講演会を別会場で行いました。一つは、クバポンが2008年に初めて農務省や稲作研究所を訪問して、稲作支援を行えるか、行えるとしたらどこで、どのようなことが可能かということ調査してから、現在外務省の草の根無償と連動しながら支援プロジェクトが進んでいる現状についてのクバポンからの報告です。

はじめに君島代表委員から経緯を含めて挨拶があり、稲作技術専門家の菊田氏から詳しい報告がありました。「キューバは米が主食」と切り出して、青年の島での取り組みについてスライド映像で分かりやすく説明がなされました。今年の5月訪問までの状況や課題を含めて、来年の長期指導滞在に向けた話がありました。キューバの農業、特に稲作についてこれほど詳しい情報は日本にほとんど知らされていなかったのが貴重な報告となりました。（キューバ・青年の島米自給支援プロジェクト

新刊案内

『キューバ探訪——17 年』 細谷久美子：編著
311 頁、四六版 定価 2100 円

CUBAPON 会員：細谷久美子さんの 17 年間のキューバ見聞録がモンカダ兵営襲撃 60 年の年の 7 月 26 日に上梓されました。革命とともに生きるキューバ人の決意、希望、苦悩の息使いを映し出しています。

それはまた、キューバ連帯を掲げた CUBAPON の 1993 年以來の活動の足跡ともなっています。

発行数 300 限定版です。是非、頒布に御協力下さい。

11 月/キューバ平和友好訪問団の呼び掛け ～モンカダ兵営祝襲撃 60 周年記念～

第 17 回キューバ平和友好訪問団へのご参加を呼びかけます。今回は、キューバ革命の発端となったモンカダ兵営襲撃事件から 60 周年を迎えます。キューバ革命の原動力となった「7・26 運動」はここから始まりました。くしくも、この襲撃失敗でとらわれたフィデルらは青年の島のモンディエロ監獄に収監されていました。

現在、その青年の島（旧ピノス島）で CUBAPON は「稲作支援プロジェクト」を実施しています。

催行日：2013 年 11 月 16 日（土）～23 日（土）

内容：●諸国民友好協会、キューバ労働総同盟との会談

●医療制度視察、農場視察

●革命の故郷サンチャゴ・デ・クーバ、チェ・ゲバラが眠るサンタクララなど見学

●キューバの国父ホセ・マルティの住居跡など

※青年の島行きご希望の場合、対処致します。

費用：380,000 円前後

※別途、TAX・燃油代等、1 人部屋割増料等

申込：2013 年 9 月 30 日（月）

※お問い合わせ下さい。詳細をお送りいたします。

もう一つの報告は、今春キューバ教育研究会が行った教育調査訪問についてです。キューバ教育研究会（CKK）は2010年の設立の後、クバポンの紹介でICAPの友好団体に登録され、今回の調査訪問にも協力しました。調査はハバナ市と青年の島、都市と地方という位置づけで小学校から大学までを訪問して調査をしてきました。

報告は、CKKの越川氏と金馬氏によって途中ビデオ上映を入れながら行われました。

なぜキューバの子どもたちが世界でもトップレベルの「学力」を持っているのか、「価値教育」が大切にされているのは何故かということを探る調査訪問でした。キューバでは「学力向上」が直接的な目的ではないので、そのためにどうするかといった関心はほとんど見られず、生徒が主体として学習することに指導研究がなされていて、結果として「学力」が高くなっているとのことでした。また、「価値教育」の背景にあるホセ・マルティなどの「人が人を育てる」という教育理念を実践化しているようでした。今回の調査ではその一端をかいま見た程度で今後研究を深めたいということでした。

この二つの報告は、とても中身の濃いもので多くの人に聞いてほしい内容でしたが、出席者は予想より少なくて残念でした。

そして短時間ではありましたが、支倉常長が日本人としてはじめてキューバに行った時のことを現地で足跡調査をしたスペイン史学会の林さんに講演してもらいました。

暑い中、1時の開場よりも40分程前から来場者が集まり始めました。それで予定より30分早めて開場して冷房の効いているホールロビーに入ってもらいにしました。

ロビーにおいては、実行委員・スタッフによるキューバのコーヒー、蜂蜜、チョコ、タバコ、ラム酒の販売やケーキとラム酒とコーヒーの一杯コーナー、同じくスタッフと中南米マガジン合同でイベント関連書籍や雑誌等の販売、またクバポンによるキューバ関連グッズやTシャツ、外部からアオラ・コーポレーションの中南米CD・DVD、アロクバーノからはたくさんのキューバグッズ、さらには、川口のプロのバーテンダーによるモヒート、ブラジル料理店「カッピングラード」などからもいろいろ出品してもらいました。ロビーの中央にはパネルを設置して、実行委員によるキューバ旅行の写真地図（青年の島を含めたキューバの東から西までの大作）や教育調査訪問での小学生・中学生・高校生の写真を、壁面には青年の島における稲作をテーマにした子どもたちの絵画を展示しました。

開演前の一時をゆっくり過ごしてもらいました。なお、当日販売した収益金は、すべて稲作支援と青年の子どもたちへの学用品代として使わせていただきます。ご協力に感謝。

メインのコンサートは定刻に開幕しました。出演はアレキサンダー・L.P. とプーロスアバーノス。キューバ人（5人）を中心に日本人一人のミュージシャンで編成されたプーロスアバーノス。そして、スペシャルゲストに女性シンガーのカレンが加わり本場キューバ・ラテン音楽の演奏となりました。

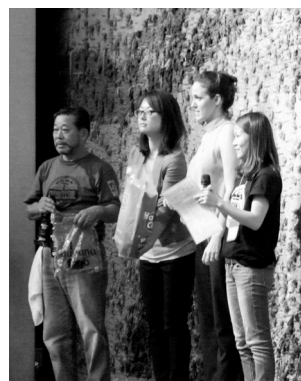
年輩者には昔聴いたことのある曲、若い人にもどこかで聴いたことがあるような懐かしさを感じさせる曲、尾崎豊の曲、アレキサンダーやカルロス自作の曲。高度なテクニックで奏でるギターやコンガ、ボンゴ、バイオリン、そして素晴らしい歌声。彼らの演奏を堪能した、あっという間の2時間でした。



I部では、稲作支援、教育視察などの報告会が行われた



ロビーも盛りだくさんのコーナー



エリザベス・バルデスマランダ臨時代理大使も参加(右から2人目)



ロビーで、青年の島の子ども達の絵画展

- 「米自給支援プロジェクト報告 vol13」発行
青年の島での「米自給支援プロジェクト」の報告を協賛カンパいただいた方に随時行っています。ご希望の方は「協賛カンパー口=3,000円」をお願いします。只今、2013年度協賛カンパ呼び掛け中。

- 「カリブの社会主義 PartXV」発行
2012年秋、実施された訪問団の現地レポート。共産党大会後のキューバの姿を、医療現場や農場視察を通じて見聞した記録。3月末に発行済（A4版、800円 送料込）

「キューバフェスティバルvol. 2」は、手作りの、これぞ私たちのキューバイベント、となりました。キューバに対する思いは参加者それぞれであり、かつまた、他で見られるような型にはまったものでもなく、今までどこにもない希有な催しでした。素晴らしい音楽をベースに、歴史、政治、文化、教育（調査報告）、自然、農業（稲作支援報告）、生活（展示）等々、それにキューバグッズの販売とまさにサルサな雰囲気がいっぱいの会場でした。

最後に来場していただいた皆様に感謝申し上げます。特にクバポン関係者は遠く、福井、新潟、福島、長野方面からお越しいただきましてありがとうございました。

（記：キューバフェスティバル実行委員会事務局長 松矢文男）